

カトリック河原町教会だより

2025年1・2月

2025年「性虐待被害者のための祈りと償いの日」にあたって 日本カトリック司教協議会会長呼びかけ(抜粋)

日本のカトリック信者の皆様

教皇フランシスコは、性加害の問題に教会全体が真摯に取り組み、その罪を認め、ゆるしを請い、また被害にあった方々の尊厳の回復のために尽くすよう求め、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けられました。日本の教会では、四旬節・第二金曜日を、この祈りと償いの日と定め、2025年にあつては、来る3月21日(金)がこの日にあたります。どうぞ、四旬節第二金曜日に、またはその近くの主日に、教皇様の意向に合わせ、司教団とともに、祈りをささげてくださいますようお願いいたします。

2025年はカトリック教会にとって、25年に一度の聖年にあたります。教皇フランシスコは大勅書「希望は欺かない」において、この一年を、「ついでることのない希望、神への希望を際立たせる聖なる年」とするよう呼びかけ、全体のテーマを「希望の巡礼者」とされました。

神のいつくしみに与り、罪のゆるしを得る恵みの年に、教会はいのちを生きる「希望」を高く掲げ、すべての人と歩みをともしたいと願っています。罪のゆるしを求めるためには、自らの過去を振り返り、罪を認め、同じ罪を繰り返すことのない決意を持たなくてはなりません。

信頼していた聖職者から暴力を受け、心に深く消えることのない傷を負われた方々に対して、あたかも被害を受けられた方に責任があるかのような言動で加害者を擁護するなど、二次加害によってさらに被害を受けられた方々を傷つけた事例も、教会内にあります。これらの言動が、人間の尊厳をさらに深く傷つけています。責任は優位な立場を利用した加害者にあるのは当然です。被害を受けられた多くの方々に、心から謝罪いたします。今の時代を担う青年たちや教会全体の声に耳を傾け、よりふさわしく十分な対応のあり方やそのための組織の改編、さらには聖職者や共同体の指導者の啓発などを検討してまいります。

あらためて、無関心や隠蔽、二次加害も含め、教会の罪を心から謝罪いたします。聖年にあつて、わたしたちの希望そのものである神の手によって、被害を受けられた方々の心が包まれますように、祈ります。



教会の様子(インスタグラムより)



御堂筋線と四つ橋線の話 ～頂点であり源泉である典礼～

洛東ブロック担当司祭 菅原友明

非常に面白い話だと思って人に話しても、まったく面白がってもらえない、そんなことってないでしょうか？そんな話の一つですが、どうして御堂筋線が赤で四つ橋線が青なのか、懲りずに書かせていただきます。ご存知のように御堂筋線は大阪のキタとミナミを結ぶ大動脈です。だから電車の色も動脈の赤なのだと。ここまでは誰もが納得できるでしょう。面白いのはその先です。御堂筋線に並行してキタとミナミを結んでいるもう一つの路線が四つ橋線なのですが、御堂筋線が大動脈で赤ならば、こちらは大静脈だから青なのだと。極めて面白い話じゃないでしょうか。実際に大阪に行き御堂筋線の「動脈感」に対する四つ橋線の「静脈感」を体感していただければこの話の妙味がわかるはずですよ。なお、地下鉄当局が本当にそんな理由で色分けしたのか？真偽のほどは不明です。

第二バチカン公会議の典礼憲章に「教会生活の頂点であり源泉である典礼」(10) という有名な表現があります。また「ヘブライ人への手紙」には「イエス・キリストは万物の目標であり源である方」(2章10節) という表現もあります。「頂点であり源泉」「目標であり源」という同じ言い方がされているわけで、私達が与っている典礼(特にミサ)がどれだけ決定的に重要なものかが知れます。なにしろイエス・キリスト(神)と同じだとさえ読み取れるわけですから。「典礼は神だ!」と言い切ったら教義的にはアウトですが、ミサに行くことは神に会いに行くことなのだというのなら問題ないでしょう。

動脈と静脈の話に結びつけるなら、典礼とは心臓なのだと思います。動脈にとってはそこから出ていく源泉であり、静脈にとってはそこに向かっていく目標です。心臓を出ていった酸素たっぷりの血液は体内のあちこちで役割を果たしてまた心臓に戻ってきます。ミサから派遣されミサに戻ってくる私達の信仰生活と似ているのではないのでしょうか。それに、どんなに離れていても動脈も静脈も心臓といつもつながっているのです!私達もいつもキリストとつながっているように。

先ほどの四つ橋線の話のもうひとつの面白さは、静脈の血が本当に青いわけではないということです。確かに酸素いっぱい動脈の血は御堂筋線のような鮮やかな赤です。しかし静脈の血は老廃物を含んでいて黒みを帯びてしまっていますが、決して青ではなく、やはり赤なのです。だから、四つ橋線のあまりにも鮮やかな青を目の当たりにすると面白さがこみあげてくるというわけです。

静脈の血のようにくたくたになっても、心臓に立ち戻って回復できることに感謝です。典礼という、帰っていける心臓がある恵みを意識して日常を過ごしていきましょう。なお、「日常生活はもう一つの典礼だ」と言われていることにも心を向けたいものです。典礼においても、日常においても、私達の人生は神様への捧げものなのです。

(写真は御堂筋線と四つ橋線が合流する
大国町駅)



主の降誕ミサと神の母聖マリア(元日)ミサ

昨年 12月24日 18:30・12月25日 10:30 から主の降誕ミサ、1月1日 10:30 から神の母聖マリア(元日)のミサが大塚司教様の司式により執り行われ、多くの参加がありました。



河原町教会あれこれ



12月22日にクリスマス市民の集いが数年ぶりに復活できました。



2025 聖年
ロゴマーク

2025 年度 教会役員紹介

越知 謙之助	留任
風間 規男	留任
北村 進	新任
谷 祐子	新任
土井 豊子	留任



12/3 司教座献堂記念ミサ



12/15 クリスマスチャリティコンサート



馬小屋飾りつけの片付け



ある日の出棺の風景



英語ミサの参加者のクリスマスパーティー
菅原神父とホルヘ神父も参加



1/26 河原町教会総会

2025年2月～4月までの主な予定(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行事予定	
2	9	日	[年間5主日] 病者の日ミサ 10:30	
	11	火	世界病者の日	
	16	日	[年間6主日]	
3	23	日	[年間7主日]	
	2	日	[年間8主日]	
	5	水	灰の水曜日(四旬節)(大斎・小斎) 灰をかける式ミサ 7:00・18:30 四旬節愛の献金(四旬節中)	
	9	日	[四旬節第1主日] 洗礼志願式 10:30 ミサ中	
	16	日	[四旬節第2主日] 四旬節黙想会 ナン神父 9:00 より講話	
	19	水	聖ヨゼフ	
	20	木	花井拓夫司祭叙階 60周年・瀧野正三郎司祭叙階 50周年 感謝ミサ 10時	
	23	日	[四旬節第3主日]	
	25	火	神のお告げ	
	28	金	召命祈願ミサ 14時(山田神学生:朗読奉仕者選任式)	
4	30	日	[四旬節第4主日]	
	6	日	[四旬節第5主日]	
	13	日	受難の主日(枝の主日)(聖週間)	
	16	水	聖香油ミサ 11:00	
	17	木	聖木曜日(主の晩さん) 19:00	
	18	金	聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎) 19:00 聖地の献金	
	19	土	聖土曜日/復活徹夜祭ミサ 19:00	
	20	日	復活の主日ミサ 7:00・10:30・14:00(英語)	
	4	27	日	[復活節第2主日](神のいつくしみの主日) 子ども初聖体 10:30 ミサ中 ミサ後お祝い会



主日ミサ(集会祭儀)の時間

土曜日 18:30

日曜日 7:00、10:30、
12:00(英語・第2第4のみ)

週日ミサの時間

水曜日 9:30

金曜日 10:30

最新の情報はウェブサイト参照

講座の時間(休講の日も有り)

これから洗礼を受けられる方向け

洗礼準備講座

土曜日 11:00(菅原神父)

一般向け

キリスト教入門講座

金曜日 19:00(瀧野神父)

プリント「キリスト論」

キリスト教入門講座

土曜日 16:00

(Sr.テッシーのチーム)

「こころにひかりを」

養成講座(信徒・一般向け)

読書会

遠藤周作「キリストの誕生」読書会

水曜日 10:00(瀧野神父)

聖書通読会

木曜日 11:00(菅原神父)

聖書の集い

金曜日 11:00(Sr.テッシー)

聖体顕示式

第3土曜日 15:15(菅原神父)

「ガラテヤ書」を読む

第1土曜日 19:20(菅原神父)

「マルコ福音書」を読む

第2日曜日 11:40(菅原神父)

「これから洗礼を受けられる方向け」は事務室か

rakuto.nyumon.class@gmail.com
まで事前にご相談ください。

カトリック河原町教会だより 2025.1・2 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 発行責任者:洛東ブロック司牧チーム

TEL:075-231-4785 FAX:075-211-8021 URL:<http://CatholicKawaramachi.Kyoto>